

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター

令和7年度 事業報告書

公1 景観まちづくり事業

住民主体のまちづくりの実現と、歴史都市・京都の美しい景観、良好な環境を具現化し、京都の都市としての品格を高めるとともに都市活力の向上に寄与することを目的とする。

1 各種情報の収集、発信及び啓発

(1) 広報活動事業

ア ニュースレター「京まち工房」

景観・まちづくりに関する各種情報、地域、関係団体等の活動状況、当財団の事業等を掲載した広報紙ニュースレター「京まち工房」を発行した。令和7年度に表紙を刷新し、幅広い世代に受け入れられるデザインに改め、賛助会員、関係団体に配布するとともに、大学、区役所等にも配架し、広く市民のまちづくりに対する意識を普及・啓発した。

- ・年4回発行（6月、9月、12月、3月） ・各号3,500部
- ・賛助会員、全国のまちづくり関連機関、京都府下大学等へ配布

号数	発行日	概 要
第111号	R7. 6. 20	(特集) 防災まちづくり、京町家関連イベント、ファンドへのご寄附
第112号	R7. 9. 20	(特集) キッズイベント開催、調査業務レポート
第113号	R7. 12. 20	(特集) 景観まちづくり活動紹介、ファンド事業報告
第114号	R8. 3. 20	(特集) 京町家再生の取組、ようこそ！まちセンへ

イ 財団ホームページ等

財団ホームページを通じ、当財団の取組や景観・まちづくりに関する最新情報を発信した。財団公式のフェイスブックページでは、イベント情報や当財団の活動状況等を積極的に発信することで情報力強化に努めた。

- ・財団ホームページアクセス件数 68,733件
- ・ひと・まち交流館内・センター（施設）ホームページアクセス件数 9,215件
- ・メールマガジン配信 15回
- ・メールマガジン購読者数 1,800人
- ・公式フェイスブックページ投稿数 48件

ウ 各種啓発冊子、技術資料等の販売

当財団が発行する書籍や受託販売書籍、京町家等組み立てキットなど、景観・まちづくりに関する各種啓発冊子等を販売した。

(ア) 冊子等の販売

- ① 京町家の再生 ((公財) 京都市景観・まちづくりセンター)
- ② 京町家物語 ((公財) 京都市景観・まちづくりセンター)
- ③ 百人一首で京都を歩く (京都百人一首・かるた研究会 代表) ほか

(イ) 京町家キット等の販売

- ① 京町家等の組立式キット ((株)さんけい)

(2) 景観・まちづくり大学等

住民の主体的な地域まちづくり活動の展開に向けて、住民が自らの居住する地域を理解し、魅力あふれる安心・安全なまちづくりを自らの役割として自覚し、地域ごとの具体的な課題解決に向けた取組を進める必要がある。

そのため、令和7年度は、引き続き、まちづくりの担い手育成を目指し、京都のまちの成り立ちや、様々な時代背景での人々の営み、その中で育まれたまちづくりの智慧など、まちづくりに取り組むうえでの基礎的な知識等を習得する講座を実施した。

京町家の保全・再生では、京町家の所有者、居住者を主な対象としつつ、居住や利活用を検討している方、京町家でのごくらしに関心を持つ方等にも参考となる、実践を重視したカリキュラムを中心とし、京町家の継承等に係る基本的な課題解決と京町家の魅力の普及を図った。

ア 京のまちづくり史連続講座

まちづくりに関心の高い市民、学生、専門家を対象に、京都の景観形成とまちづくりの歴史を学び、京都の景観形成に資するまちづくりに対する理解を深めた。

令和7年度は対面講座を基本に、オンラインによる受講も併用して実施した。

※全8回 有料 1回1,000円(通年受講は前期・後期各2,200円) ※学生はそれぞれ半額

開催日	講座名	講師(敬称略)	出席者
R7.5.23	京都のまちはどうできた?ー今につながるまちの物語ー	丸山 俊明(住環境文化研究所 主宰)	38
R7.6.28	祇園祭と京都のまちー山鉾町に受け継がれる祭礼文化ー	佐藤 弘隆(愛知大学地域政策学部 准教授)	42
R7.7.25	「水とともにある京都の暮らしー井戸と川のもたらす豊かな日々ー	鈴木 康久(京都産業大学現代社会学部 教授)	39
R7.9.19	京町家と路地ー暮らしとコミュニティー ※京町家再生セミナーとの合同企画	中川 等氏(古材文化の会 会長)	43
R7.10.24	琵琶湖疏水がつくった風景と公共空間ー近代土木事業と都市空間ー	中嶋 節子氏(京都大学大学院人間・環境学研究科 教授)	43
R7.11.28	「鴨川ー遊びの場としての歴史と風景ー」	林 倫子氏(関西大学環境都市工学部 准教授)	34

開催日	講座名	講師（敬称略）	出席者
R8. 2. 14	京都の近代産業遺産ーラジオ塔が形づくる児童公園のランドスケープー	岡田 昌彰 氏（近畿大学理工学部教授）	23
R8. 3. 19	道と橋の景観デザインー歴史的風景の重ね合わせー	川崎 雅史 氏（京都大学大学院地球環境学堂 教授）	37
合計			299

イ まちあるき講座

菊浜学区において、小学生がまちを歩き、自分が発見したものを基にそれぞれの感性で自分の地図を作ることにより、まちに興味を持ってもらい、様々な人や活動があることを知り、また、今後まちに関わるきっかけとしてもらえる機会となった。

※全1回 有料 小学生 500 円（同伴者無料）

開催日	講座名	講師（敬称略）	出席者
R7. 8. 10	発見！体験！まちあるき♪ まちを探検して、my 地図の作り方を楽しく学ぼう！	吉田 泰基 小林 明音 白水 育世 （（一社）マチノミカタ）	小学生 9

ウ 地域まちづくりセミナー

令和4年6月にひと・まち交流館 京都（以下「当館」）地下1階に移転した、京安心すまいセンターと合同で、子育て世代の親子を対象に、「すまいとまちフェスタ」を開催し、当財団は、初音学区自治連合会副会長の富名腰 隆氏を講師に、「中世京都の自治活動と地蔵盆」、同志社大学学生団体 edunka の学生の協力による地蔵盆体験及び畳店店主による「ミニミニたたみづくり」、読み聞かせ団体「このはな文庫」による地蔵盆に関する図書読み聞かせを開催した。

また、上記催しにおいて、京安心すまいセンターが実施した「おうちバッグでまちづくり」では、センター同士の連携を図るため、京のまちかどボランティアガイドにより京都のまちの説明を行い、参加者の交流を図るため、保護者向けのカフェスペースを設置した。

※全1回 無料

開催日	講座名	講師（敬称略）	出席者
R7. 8. 3	「中世京都の自治活動と地蔵盆」	富名腰 隆（初音学区自治連合会副会長）	12
	ミニミニたたみづくり（ワークショップ）	西脇 一博（西脇畳敷物店）	延べ 32
	おはなしコーナー（パネルシアター）	鈴木 美和（このはな文庫）	延べ 22
	地蔵盆体験	協力：同志社大学学生団体 edunka の学生	39（数珠回し）
合計（延べ人数）			105

エ 京町家再生セミナー

主に京町家の所有者、居住者を中心として京町家に関心のある方を対象に、京町家の暮らし、活用、継承への実践的知識を深めるため、京町家の維持管理、改修、活用、相続等について専門家による講義を行った。

京町家を会場とした講座を含め、対面での開催を基本とし、オンラインでの開催を併用して実施した。

※全8回 有料 1回 1,000 円（座学）、「京町家と木」1,500 円、「京町家暮らしの風景」2,000 円（お茶・お菓子代込み）

開催日	講座名	講師（敬称略）	出席者
R7. 5. 22	今こそ！相続登記	内藤 卓（司法書士、京町家相談員）	18
R7. 6. 19	京町家の火災予防	山田 正人（京都市消防局予防課）	32
R7. 7. 17	京町家の修繕方法-傷みの早期発見が長持ちの秘訣-	中川 幸嗣（一級建築士、中川幸嗣建築設計事務所代表）	23
R7. 9. 25	いぶし銀の魅力-日本瓦の用と美-	光本 大助（京都府瓦工事協同組合理事、光本瓦店有限会社代表取締役）	25
R7. 10. 30	京町家らしさを取り戻すために	内田 康博（京町家再生研究会理事長、内田康博建築研究所代表）	22
R7. 11. 30	京町家と木-木づかいと木の文化-	会場：七条仏所跡 田中家 中川 典子（銘木師、株式会社千本銘木商会専務取締役）	26
R8. 2. 5	京町家カルテ委員長が見た住まいの形-洛北の民家徹底解説-	大場 修（立命館大学衣笠総合研究機構教授、京町家カルテ委員長）	31

開催日	講座名	講師（敬称略）	出席者
R8. 3. 7	京町家暮らしの風景－祖母と過ごした昭和の日々－	会場：きっさこ和東 栗山 裕子（京町家相談員、WIN 建築設計事務所主宰）	19
合計			196

オ 三都連携事業

三都連携事業は、京都市・大阪市・神戸市の住情報センターによる共同事業で、各都市の住情報センターに寄せられる相談等を共有し、今後の事業等に活用することを目的としている。

各都市が持ち回りで幹事を担当し、年1回程度、全体でのグループ勉強会等を開催している。令和7年度の当番都市は京都市であった。

令和7年度は2回の全体会議を行い、1回目に、災害時における住まい相談に対する三都市住情報センターのマニュアル更新等の情報共有及び令和7年度の事業計画の検討等を行った。2回目は、全体勉強会として、「居住支援」をテーマに、今後の居住支援事業において住情報センターが担うべき役割と福祉との連携について検討する機会とするため、地域包括支援センターや福祉部局等、福祉の関係者も交え、勉強会及び意見交換を開催した。

【全体勉強会概要】

- ・日 時：令和8年2月19日（木）13時～16時半
- ・会 場：ひと・まち交流館 京都 地下1階 ワークショップルーム1及び2
- ・参加者：約40名
- ・内 容：講演・話題提供・グループディスカッション

カ 各種団体等との協働セミナー等

景観・まちづくりに関わる、地域、市民団体、職能団体、NPO法人、学会、他都市の中間支援組織等との協働により、セミナー等を共催した。

(7) 景観エリアマネジメント講座

まちづくりに関わる様々な分野の専門家を対象に、京都の景観に対する幅広い知識と高い見識を持つ人材を養成することを目的として、その知識を得るための基礎講座、フィールドワークを中心に地域での活動に必要なスキルを得るための実践講座をNPO法人京都景観フォーラムとの共催事業として開催した。

・基礎講座（全8回）

開催日	内容	講師（敬称略）
R7. 6. 14	基礎理論(1)景観を学ぼう！	堀 繁（東京大学 名誉教授）
R7. 7. 26	基礎理論(2)景観と都市形成 WS1：私の好きな景観を語ろう	宗田 好史（関西国際大学 教授） 中嶋 節子（京都大学大学院 教授）

開催日	内容	講師（敬称略）
R7. 9. 27	WS2：まちのことを調べてみよう FW：景観視点でまちを見てみよう	—
R7. 10. 18	まちとまちなみ WS3：まちの特性を考えよう	森重 幸子（京都美術工芸大学 教授） 魚谷 繁礼（魚谷繁礼建築研究所／京都工芸繊維大学教授）
R7. 11. 15	公共空間のデザイン WS4：私が京都景観エリアマネージャーになったら	川崎 雅史（京都大学大学院 教授）
R7. 12. 20	京の生活文化	町田 香（京都芸術大学 准教授） 桐浴 邦夫（京都建築専門学校副校長） 笹岡 隆甫（華道「未生流笹岡」家元）
R8. 1. 24	自然資源と観光資源の活用	深町 加津枝（京都大学大学院 准教授） 村上 佳代（文化庁 文化財調査官） 阿部 大輔（龍谷大学 教授）
R8. 2. 21	景観まちづくり	高田 光雄（京都美術工芸大学 教授）

・実践講座（全8回）

開催日	内容	講師（敬称略）
R7. 5. 31	オリエンテーション GW：地域の基礎資料の収集、課題の想定	—
R7. 6. 15	景観を理解する GW：現地調査、課題設定	堀 繁（東京大学 名誉教授）
R7. 7. 19	先輩エリマネの事例 GW：ビジョンとプロセス検討	京都景観エリアマネージャー
R7. 9. 20	地域のまちづくり事例 GW：ビジョンとプロセス検討	地域のまちづくりリーダー
R7. 10. 11	GW 発表会 WS：実践フィールドにおける課題と対策について	京都景観エリアマネージャー
R7. 11. 8	修了レポートゼミ 1	—
R7. 12. 20	修了レポートゼミ 2	—
R8. 2. 21	修了レポート発表会・修了式	—

(イ) 文化財マネージャー育成講座

京都市、認定NPO法人古材文化の会、一般社団法人京都府建築士会と共に「京都市文化財マネージャー育成実行委員会」を構成し、同委員会の主催により、歴史的建造物の調査・保存・活用やまちづくりを実践する文化財マネージャー（建造物）を育成することを目的とする「京都文化財マネージャー育成講座（建造物）」、文化財マネージャー（建造物）のスキルアップを目的とする「京都文化財マネージャー育成講座スキルアップ講座」を開催した。

なお、第15期講座は、令和7年4月に開講し、同年10月に終了した。

・第15期文化財マネージャー育成講座（建造物）

開催日	内容	講師（敬称略）
R7. 4. 12	開講式・オリエンテーション 保存・活用概論	中川 等（古材文化の会） 高田 光雄（京都美術工芸大学）
R7. 4. 26	文化財保護法	岡本 公秀（文化庁）
	循環型社会と保存・活用	浅岡 美恵（弁護士）
	住まいの建築	中川 等（古材文化の会）
R7. 5. 10	京都市の文化財行政	森尾 勇三・原戸 喜代里（京都市）
	歴史的建造物の継承と暮らし	秦 めぐみ（秦家住宅）
	秦家住宅（市登録有形文化財）・ 杉本家住宅（重要文化財）の見学 町並み歩き	
R7. 5. 24	庭園の様式	町田 香（京都芸術大学）
	指物の技法	大谷 晋賢（伝統工芸士）
	歴史的建造物の調査と評価	永松 尚（建築士・文マネ）
	修了課題の説明、演習1の説明	
R7. 6. 7	演習1 歴史的建造物調査	建築家と京都市文化財マネージャー
R7. 6. 21	保存・活用のマネジメント	宗田 好史（関西国際大学）
	近現代建築	石田 潤一郎（武庫川女子大学）
	演習1 の中間報告	
R7. 7. 5	寺社建築	菅澤 茂（工学院大学）
	歴史的建造物の技法／瓦葺	寺本 光男（瓦葺職）
	歴史的建造物の技法／左官	浅原 一郎（左官職）
	演習1 の講評、演習2 の説明	
R7. 7. 19	演習2 指定文化財の修理現場見学 （本隆寺祖師堂）	島田 豊・田邊泰人・大和裕也 （京都府教育庁）
R7. 8. 2	歴史的建造物の耐震補強	井上 年和（京都美術工芸大学）
	歴史的建造物の再生理念	藤岡 龍介（建築家）
	保存活用と再生設計/構造設計	能戸 謙介（建築家）
	保存活用と再生設計/意匠設計	内田 康博（京町家再生研究会）

開催日	内容	講師（敬称略）
R7. 8. 23	歴史的環境の整備	山崎 正史（立命館大学）
	観光活用とその課題	西山 真司（京都市）
	保存・活用とまちづくり /山田家住宅と醍醐	徳光 都妃子（建築家・文マネ）
	保存・活用とまちづくり /旧三上家住宅と宮津	岩田 信一（建築家・文マネ）
	演習 2 の講評、演習 3 の説明、 修了課題の中間報告	
R7. 9. 6	演習 3 保存・活用相談	建築家と京都市文化財マネージャー
R7. 9. 20	景観法・建築基準法適用除外制度	高橋 諒・向井 愛（京都市）
	リノベーション建築の評価	富家 裕久（建築士）
	演習 3 の講評 修了課題の中間報告	
R7. 10. 4	歴史的建造物と防災対策	益田 兼房（日本イコモス国内委員会）
	歴史的建造物の継承と税金	飯田 真弓（税理士）
	修了課題中間発表会	
R7. 10. 25	修了課題発表会 講座修了式・修了証書授与	

・文化財マネージャー育成講座スキルアップ講座

開催日	名称	講師（敬称略）
R8. 2. 25	活用のためのツーリズムと展示 ※京都を彩る建物や庭園所有者 交流事業との合同開催	以倉 敬之（合同会社まいまい京都代表） 前田 尚武（京都美術工芸大学特任教授）

2 市民等の活動に対する総合的支援

(1) 地域活動支援

地域の魅力向上や課題解決に向けて、景観まちづくりやまちのルールづくり、防災まちづくりに取り組む地域を支援し、魅力あふれる安心・安全な地域づくりを進めた。

ア 景観・まちづくり相談

当財団職員が、自主的なまちづくり活動に取り組もうとしている地域に対して、様々なアドバイスや各種情報提供等を行い、活動の継続、活動内容の更なる充実につなげた。

相談・支援件数 362件（令和6年度 382件）

相談・支援内容	令和7年度 件数	令和6年度 件数
地域まちづくり活動、地域の現状等	130	95
マンション問題	6	1

相談・支援内容	令和7年度 件数	令和6年度 件数
当財団事業概要（まちづくり活動支援事業等）	12	6
景観・まちづくりに関するルール（式目、地区計画、地域景観づくり協議会、建築協定等）	115	118
法律、条例関係（都市計画法、景観法、建築基準法等）	19	4
防災まちづくり	120	182
まちづくりコーディネート事業	258	288
その他（地域課題、講座、学生対応、視察等）	43	31
合計	703	725

※ 相談・支援1件につき、複数の相談・支援内容を含む場合がある。

イ まちづくり専門家派遣

課題に応じて、まちづくりの専門家を地域に派遣し、地域活動を支援した。

※京都市からの委託事業における専門家派遣は別途記載

地区等	支援内容
北区 柏野学区	高齢化とそれに付随する問題(孤独死、空き家等)に対する危機感が大変高く、独居老人の居場所を民生委員が調査し、地図化するなど意識も大変高いことを確認した。その後、防災まちあるきを経て、まとめのワークショップを行い、今後の活動についても協議した。 (コンサルタント派遣)
東山区 祇園東地区	地域の中心を通る中末吉通の石畳舗装の完工を契機として、まちづくりの機運が高まったことから、京都市・専門家と共に、今後のまちづくりの方向性の検討や、主体づくりに向けた意見交換を行った。 (まちづくり専門相談) ※期間派遣へ移行
東山区 常盤町5・6・7組地区	区域内の建築物について、宿泊施設の立地を制限することにより、落ち着いた住宅地としての環境を維持することを目指している。そのための手法として建築協定制度について理解を深め、活用について検討を行った。 いわゆる民泊等の制限を目的に建築協定書を作成し、合意書を集約することにより、認可申請書を京都市に提出した。 (まちづくり専門相談) ※期間派遣へ移行
中京区 壬生賀陽御所町（綾西町）	町内会及びその周辺地区において、大規模なマンションや民泊等の規制を検討しており、各種まちづくりに係る制度について勉強会を開催し、まちづくり手法の活用を検討を行った。 (まちづくり専門相談)

地区等	支援内容
西京区 阪急桂南住宅地区	50年間継続してきた建築協定等により、良好な住環境が形成され、それが維持されてきているが、住民の高齢化や個人情報の保有に係る負担から、地区計画への移行を検討している。 将来にわたる良好な住環境の維持やコミュニティの活性化など、当該地区にふさわしいまちづくり制度について、専門家による勉強会や話し合いを行いながら検討を進めた。 (まちづくり専門相談、コンサルタント派遣)

ウ まちづくり活動助成

まちづくり活動の立ち上げや継続的に取り組む地域に対して、運営活動費（活動広報物の作成や地域での勉強会の開催、地域景観づくり計画書の印刷等）を助成する制度である。

今年度は、下表の地域に対して助成を行った。

地区等	支援内容
左京区 大原戸寺町地区	地区計画（変更）の要望書提出後、地域独自でまちづくりルールを策定するため、配布物の印刷、講師謝金に対して助成を行った。
上京区 室町学区	地域住民の防災意識を向上させ、防災まちづくりを進めるため、防災まちづくりマップの印刷に対して助成を行った。
上京区 成逸学区	避難所運営マニュアルや防災マップの改定作業への謝礼や印刷に対して助成を行った。
下京区 有隣学区	防災まちづくり活動として行っている、避難所運営マニュアルの印刷や付随する文具類に対して助成を行った。
東山区 祇園新橋景観づくり協議会	屋外広告物の地域独自のガイドライン策定に向けた、まちづくりニュース（号外）の印刷に対して助成を行った。
東山区 古門前元町	まちづくり活動の再興のため、防災マップや地域の要支援者マップなどの作成謝礼及び印刷に対して助成を行った。
東山区 常盤町 5・6・7 組地区	建築協定の締結に向けた協議会の開催の会場賃借や資料印刷、建築協定合意書作成に係る郵送費などに対して助成を行った。

エ 専門家育成講座

当財団登録専門家の活動支援に向け、専門家育成講座として、当財団から専門家派遣を行い作成された路地整備計画の改修現場の見学会を開催した。

本見学会は、他主体が参画する取組のモデルケースとして、今後の路地整備計画への専門家の関

心を高める機会となった。

【開催概要】

- ・ 日 時：令和8年1月25日（日）午後2時30分から午後4時30分
- ・ 参加者：50名程度
- ・ 内 容：路地再生・改修現場見学

※滋野東橋詰町プロジェクト見学会と同時開催

建築学会近畿支部主催「親子土壁体験会」も同時開催

【参考】

歴史都市京都の特性を生かしつつ、市民が安心・安全に住み続けられる災害に強いまちづくりを進めるため、細街路が集中する木造密集市街地において、建物を適切に更新するための制度の運用、京都らしい町並みの保全、避難ネットワークの確保等の具体的な対策を総合的に検討・推進するとともに、それらを実施する地区の防災まちづくりの取組を支援している。

上京区東橋詰町（滋野学区）には、木造が密集する細街路があり、当該路地を含む区域は、路地整備計画の対象区域とすることにより当該区域の路地再生による整備又は保全を図ることができる」と市長が認める区域である。

オ 地域主体のまちづくり支援業務（京都市受託事業）

地域の多様な魅力と個性を生かし、新たな価値の創出に取り組んでいる地域や、地区計画や建築協定、地域景観づくり協議会などの制度を活用し、これからまちづくりを推進しようとする地域に対して、地域活動の充実を図るとともに、様々な都市計画制度の普及啓発と活用推進に向け、専門家派遣等の支援を行った。

令和7年度は、地域主体のまちづくり支援業務として契約を受託し、その枠組みの中で、景観政策課、建築指導課、まち再生・創造推進室、都市計画課と連携し、まちづくり支援を実施した。

(7) 景観づくり支援（景観政策課）

地域の個性を活かした魅力ある景観まちづくりを一層推進するため、各地域景観づくり協議会が実施する意見交換会等の活動、地域が行う夜間景観の検討の取組、地域のビジョンやルールづくりに対し専門家の派遣を行い、今後の進め方などについて助言を行うとともに、情報収集や専門家への情報提供等の支援を行った。

① 各協議会及び今後制度活用を検討する地域への専門家派遣等の支援

地域が行う夜間景観の検討の取組や屋外広告物のルールづくり、また、設立間もない地域景観づくり協議会に対して、今後のまちづくり活動の方針や取組を検討する活動に専門家の派遣を行った。

地区等	支援内容
東山区 祇園新橋 景観づくり協議会	屋外広告物ガイドラインの策定に向け、屋外広告物の種類ごとの評価を参考にしながら、地域へのまちづくりニュースの発行及び地域の事業者へのアンケート調査に取り組み、ガイドラインの構成や掲載内容等について検討を行った。

地区等	支援内容
右京区 鳥居本町 景観まちづくり協議会	協議会の安定した運営基盤構築を更に推し進めるため、専門家と共に協議会パンフレット作成や関係諸団体との地域の景観に関する意見交換会実施のサポートを行った。また、持ち帰り用容器のゴミや民泊、そして屋外広告物等、頻出する多種多様な問題に協議会が対応できるよう、適宜助言を行った。
右京区 嵐山まちづくり協議会	専門家派遣初年度の令和7年度は、観光客、地域内で商売を営む事業者、そして地元住民の三者に向けた、地域内の屋外広告物に関するアンケート調査を行うとともに、広告景観づくり推進課による関連条例の解説の場を設けるなど、専門家と共に活動の基盤づくりを行った。
下京区 梅小路界わい地区	地域のまちづくり活動の関係者を集め、「夜の梅小路をより魅力的にするには何が必要か」「夜の梅小路でどのような活動が可能か」を考える契機を創出し、また関係者相互の連携関係の構築や、夜間景観づくりへの機運醸成を図るため、交流会を開催した。

② 「京都市地域景観まちづくりネットワーク」の活動支援

京都市に認定された協議会で構成される「京都市地域景観まちづくりネットワーク」の定例会議の企画・運営を支援し、各地域間の情報及び課題の共有を行った。

京都市地域景観まちづくりネットワーク構成団体（計16地区、1団体）	
（上京区）	笹屋町一丁目景観まちづくり協議会
（中京区）	先斗町まちづくり協議会、姉小路界限まちづくり協議会、明倫自治連合会、京の三条まちづくり協議会
（下京区）	修徳景観づくり協議会、膏薬辻子まちづくり協議会
（東山区）	西之町まちづくり協議会、一念坂・二寧坂 古都に燃える会、祇園新橋景観づくり協議会、祇園町南側地区協議会、祇園商店街振興組合景観委員会
（右京区）	仁和寺門前まちづくり協議会、嵐山まちづくり協議会、鳥居本町景観まちづくり協議会
（西京区）	桂坂景観まちづくり協議会
（団 体）	特定非営利活動法人京都景観フォーラム

（イ）建築協定等を活用したまちづくり専門家派遣（建築指導課・まち再生・創造推進室・都市計画課）

建築協定の締結又は地区計画の策定等を目指してまちづくり活動を行う地区を対象に、専門家を派遣し、地域住民の主体的な取組に対して支援を行うとともに、建築協定地区64地区が加入する京都市建築協定連絡協議会の活動支援を行った。

① 専門家派遣

新たに建築協定制度又は地区計画制度等の活用を検討する地域等へ、専門家の派遣を行った。

地区等	支援内容
東山区 常盤町 5・6・7 組地区	区域内での宿泊施設の立地制限により、住宅地としての落ち着いた環境を維持することを目指している。そのための手法として建築協定制度について理解を深め、活用について検討を行った。 いわゆる民泊等の制限を目的に建築協定書を作成し、合意書を集約することにより、認可申請書を京都市に提出した。
東山区 祇園東地区	地域の中心を通る中末吉通の石畳舗装の完工を契機として、まちづくりの機運が高まったことから、京都市・専門家と共に今後のまちづくりの方向性の検討や、主体づくりに向けた意見交換を行った。
西京区 ガーデンハウス洛西境 谷公園住宅地区	建築物の高さの制限や用途の規制等について検討し、将来に向けた住環境の維持向上を図るため、建築協定制度のさらなる活用について検討を行った。

② 建築協定連絡協議会への活動支援

総会、役員会、研修会などの活動支援や、協議会の活動を対象とした補助金の交付を行った。

大阪工業大学工学部教授の吉田哲氏を迎え、『みんなで楽しくまちづくり』～深草・藤森・藤城のとまり木休憩所・おでかけベンチ協働プロジェクトの取組を例として～として研修会を行い、受講者の対象を協議会加入地区の方のみとせず、幅広く募集を行い開催した。講演の後、参加者がグループに分かれてワークショップによる意見交換会を実施し、「参加のハードルを下げるためには…」、「地域外の人との連携」などをテーマに、今後のまちづくりの方向性について考えた。

また、昨年度に引き続き、各地区運営委員会における建築計画の審査事務の円滑化及び省力化を図るため、審査時に用いるチェックリストづくりを実施した。

(ウ) 路地再生支援（建築指導課）

京都市の連坦建築物設計制度及び接道許可制度の拡充を受け、既存制度では建替え等が困難だった敷地の建物更新を図る路地再生事業の支援を行うものであるが、令和7年度は具体的な実績はなかった。

カ 防災まちづくり専門家派遣（京都市受託事業）

密集市街地内において防災まちづくりに取り組む地域に専門家を派遣し、防災まちづくり計画の策定や計画実現のための各種活動に対する支援を行った。

地区等	状況	支援内容
上京区 室町学区	防災まちづくり 計画策定	子育て世代や高齢者、各種団体長などへのヒアリングの実施や住民の防災に対する気運の醸成や啓発を進め、防災まちづくり計画策定に向けた地域主体の活動を支援するため、専門家派遣を実施した。 (防災まちづくりの取組3年目)

地区等	状況	支援内容
下京区 植柳学区	防災まちづくり 計画策定	意見交換会や地域行事での啓発、アンケート調査などを行い、住民の防災に対する気運の醸成や啓発を進め、防災まちづくり計画策定に向けた地域主体の防災まちづくりの活動を支援するため、専門家派遣による支援を行った。 (防災まちづくりの取組２年目)
東山区 新道学区	防災まちづくり 計画策定	防災まちあるきの開催支援、関係者へのヒアリング、また広報資料の作成を行い、防災まちづくり計画策定に向けた地域主体の活動を支援するため、専門家派遣による支援を行った。 (防災まちづくりの取組２年目)
右京区 安井学区	防災まちづくり 計画策定	防災まちづくりアンケートや地域行事での普及啓発を行う、防災ワークショップによる意見を防災まちづくり素案に反映させる等の活動を通して、住民の防災に対する気運の醸成や啓発を進めるとともに、防災まちづくり計画策定に向けて専門家派遣による支援を行った。 (防災まちづくりの取組２年目)
上京区 出水学区	防災まちづくり 計画策定済	路地整備計画を作成する候補路地（主税町）の地域及び地権者等を対象に路地整備計画の目的周知や説明会等の企画・調整及び実施を行った。また、「密集市街地のこみち改善事業」の実現に向けて、学区内の２項道路から選定の候補となる整備路線の抽出を行い、関係地権者等に対して、事業内容の周知及び意向調査を行うなど専門的・技術的支援を行った。 (防災まちづくりの取組１０年目)
南区 吉祥院西ノ庄東屋敷町 (祥豊学区)	路地整備計画 策定前	建築基準法の制約等により建物更新が難しい路地奥の空き家について、連坦建築物設計制度又は接道許可制度を活用して再生を促す路地整備計画の策定に向け、その前段整理として、申請者及び対象区域の地権者、関係者を対象に相続・売却・賃貸・修繕・建替えなど、路地の活用に関するコンサルティングを行った

(2) 京町家再生支援

ア 京町家なんでも相談

京町家の保全、再生、活用について、京町家所有者・居住者の多くが様々な課題を抱えている。本事業は財団の京町家事業の総合窓口として、相談者に寄り添い、課題に対して複合的な課題の整理や具体的な方策を示すことにより課題解決につなげた。

(7) 一般相談 ５３５件（令和６年度実績 ４３５件）

当財団職員が相談内容に応じて各種公的制度、専門相談及び団体紹介を行った。

(4) 専門相談 ６９件 ※受託事業６９件（令和６年度実績 ５４件）

大工、建築士、不動産事業者等の実務者による専門相談を行った。平成３０年１０月以

降、専門相談は京都市委託事業「京町家相談員制度等の運用業務」として実施している。
令和7年度に実施した専門相談の件数は69件である。

【相談項目内訳】 令和8年3月31日時点

相談項目	件数
改修・修繕	188
活用	118
賃貸	27
売買	33
耐震、防火	10
相隣問題	27
相続、所有権関係	20
維持・管理	18
資金、公的な支援制度	70
その他（視察、協力依頼、情報提供など）	159
京町家まちづくりファンド	48
京町家カルテ	41
京町家等継承ネット	82
合計	841

※複数選択のため、相談件数の合計とは一致しない。

（参考）京町家等継承ネット事業として令和8年3月に
「京町家・空き家なんでも相談会」を開催した。

(ウ) 京町家相談員

令和7年度、相談対応窓口の「京町家マッチング制度」と「京町家なんでも相談（専門相談）」を統合し、これまで以上に相談者に分かりやすく利用しやすい制度とした。統合に伴って「京町家マッチング制度」の登録事業者から京町家相談員を募集し、新たに16名を追加した（京町家相談員 計110名）。

登録更新に必修となる登録更新研修において、京町家の保全・継承のこれまでの取組を振り返り、京町家の残存状況等について解説するとともに、相談事例の紹介や近年の建築基準法の改正が京町家に与えた影響などを解説した。

さらに、路地奥に位置する空き長屋を職住一体の建物として改修、活用された事例や地域の歴史と文化が持つ価値や魅力を発信する拠点として再生された事例を見学する「京町家再生見学会」を開催した。

【登録更新研修開催概要】「京町家の今と未来」

会場：京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム

開催日	内容	講師（敬称略）	出席者
R7. 12. 11	① 京都市の京町家の保全・継承の取組の今とこれから	京都市都市計画局まち再生・創造推進室 担当係長 嶋澤 貴大	京町家相談員 53名
	② 京町家なんでも相談案件の現況	京都市景観・まちづくりセンター事業第一課長 西井 明里	
	③ 建築基準法改正が京町家保全に与えた影響—京町家でできること—	京都市都市計画局建築指導部建築審査課審査第一係長 山口 真奈美	

【京町家再生見学会開催概要】

開催日	内容	解説（敬称略）	出席者
R7. 11. 6	京町家再生見学会 会場：昭和小路コナガヤ （東山区）	(株)KOMOCHIYA 取締役 石田 聡一郎 (株)山本嘉寛建築設計事務所 代表 山本 嘉寛	京町家相談員 19 名 専門家・行政職員等 約 40 名 計約 60 名
R8. 2. 24	京町家再生見学会 会場：竹中庵（左京区）	末川協建築設計事務所 代表 末川 協 (株)辻工務店 代表 辻 勇治	京町家相談員 17 名 専門家・行政職員等 43 名 計 60 名

イ 京町家データベース

平成20～21年度京町家まちづくり調査によって調査した約48,000件の京町家等を元に ID を付与した京町家をエクセルファイルにて管理し、併せて GIS（地理情報システム）を用いて、地図上にて地理的な情報として管理・出力している。

個々の京町家について、専門相談、京町家カルテ、京町家まちづくりファンド、建物調査報告書の作成等の相談・対応履歴を入力し、年度毎、個々の京町家に関する情報を一元的に管理する京町家データベースを運営している。

令和6年度に京都市、立命館大学及び当財団の三者で実施した「京町家状況調査」、並びに令和7年度に実施した「京町家現地調査」（後述）において判明した、京町家の滅失・残存状況を京町家データベースに反映するため、準備・調整を行った。

ウ 京町家等継承ネット

京町家等の適切な継承を促進することを目的として、平成26年11月21日、京町家等継承ネット（代表 高田光雄 京都美術工芸大学教授、京都大学名誉教授）が設立された。当財団は事務局として、京町家等継承ネットを構成する京町家等の継承に関わる多くの団体、所有者や居住者と共に、京町家等の保全・継承に取り組んでいる。

京町家・空き家なんでも相談会を、令和7年4月及び令和8年3月に開催した。また、リーフレット「ひと・いえ・まちを継ぐ」を発行した。

(7) 運営に関する行事

開催日	内 容	出席者
R7. 5. 26	京町家等継承ネット コア会議 ・個別案件の状況確認等	5 名
R7. 6. 16	京町家等継承ネット第12回全体会議 ・全体会議・前年度事業報告及び決算、今年度事業計画等の承認	39 名
R7. 9. 11	京町家等継承ネット コア会議 ・寄附受納予定物件、個別案件の状況確認等 ・京町家賃貸モデル事業について	6 名

開催日	内 容	出席者
R7. 10. 16	京町家等継承ネット 意見交換会 ・京町家賃貸モデル事業について	6 名
R7. 11. 20	京町家等継承ネット 意見交換会 ・京町家再生・流通促進支援制度等について	5 名

(イ) 普及・啓発の取組

① 京町家・空き家なんでも相談会の開催

開催日	会場	京町家相談員数	相談件数	
R7. 4. 18	京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム 1・2	12 名	専門相談	7 件
			一般相談	5 件
R7. 4. 19	京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム 1・2	15 名	専門相談	11 件
			一般相談	5 件
R8. 3. 14	京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム 1・2	21 名	専門相談	14 件
			一般相談	6 件

② 教育研修

京町家等継承の専門的相談の習熟を図るため、会員向けの特別講演を実施した。

・第 12 回全体会議・特別講演

全体会議開催に合わせて、特別講演を実施した。

会場：京都市景観・まちづくりセンターワークショップルーム 1・2

開催日	内容	講師（敬称略）	参加者
R7. 6. 16	「近代建築の保存活用に向けて」	笠原 一人 （京都工芸繊維大学 准教授）	53 名

③ 未来と町家をマッチする トークセッション 2025

京町家の保全・継承について、より実効性の高い施策への再構築に向けた取組の一つとして、「京町家を未来につなぐタウンミーティング」を京都市と共催した。その様子を撮影及び編集を行い、ポータルサイト MATCH YA 及び Youtube にて動画配信を行った。（開催日 令和 7 年 8 月 29 日）

テーマ	京町家暮らしのリアル 京町家の新しい可能性
登壇者 （敬称略）	荒川 朋彦（有限会社キタ商事 取締役） カルドネル島井 佐枝（MUZ ART PRODUCE 代表） ダイモン ナオ（イラストレーター、「草と本」店主） 西澤 徹生（株式会社ニシザワステイ 代表） 三島 奈月（京都美術工芸大学 学生）
司 会 （敬称略）	中嶋 節子（京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授）

会 場	コミュニティ・バンク京信 QUESTION 7 階 Creative Commons
-----	--

(ウ) 支援システムの開発に係る取組

大型町家の保全・継承に向けて、個別の相談対応及び支援システムの開発を実施した。

① 大型町家継承モデルプロジェクト

京町家なんでも相談等で受けた相談案件の大型町家について、京町家等継承ネットにて継承・活用提案や公的指定のための往訪相談等を行った。

② 歴史的建築物の保全・継承に向けた公民連携による方策の意見交換会

京町家をはじめとした歴史的建築物の保全及び継承の一層の促進を目的として、公民連携による今後の方策について意見交換の場を設けた。

【意見交換会】

開催日：令和7年9月11日、10月16日、11月20日

議 題：京町家の継承・流通促進支援事業について

概 要：京町家の継承・流通のさらなる推進に向けた、公的サブリースを含む不動産スキームの可能性や職能団体との連携について意見交換を行った。

参加者

所 属		氏名（敬称略）
（一社）京都府不動産コンサルティング協会	副理事長	山下 善彦
京町家居住支援者会議	事務局長	吉田 光一
都市居住推進研究会	運営委員	西村 孝平
京都市まち再生・創造推進室	再生・創造企画係長	岸本 崇嗣
	京町家保全継承係長	壇野 真
	担当係長	嶋澤 貴大

③ ポータルサイト MATCH YA の活用

ポータルサイト MATCH YA を活用し、京町家等の担い手となる入居者・事業者への情報提供、京町家所有者の利活用意向の醸成を図った。

京町家の多様な活用事例を紹介している STORIES では、和紙製品の企画・販売をしている企業の記事1件を追加し、計18件を掲載している。

④ 相談体制の強化

京町家への企業誘致を推進するために、活用希望者への不動産情報の提供等のサポートを行った。

エ 京町家に関する学習支援

京都市立西京高等学校附属中学校での京町家授業支援（家庭科：「京町家について知ろう」）として、中学2年生の家庭科の授業の一環で、京町家授業の支援を行った。

【概 要】

授業実施日：令和8年2月25日

対 象：京都市立西京高等学校附属中学校 2年生（40名×3クラス）

内 容：当財団より、京町家の成り立ちや造り、自然やまちとの関わり、暮らしの文化、京町家が置かれている現状等を説明した。生徒による意見交換やグループ発表を実施。

3 各種団体等との交流及び協働活動

ワールド・モニュメント財団（WMF）との連携

ワールド・モニュメント財団との連携を継続するとともに、京町家の魅力と現代的価値を海外に情報発信することで、海外の諸支援団体とのネットワークの形成を図る。

令和7年度は、ワールド・モニュメント財団等の視察対応と協議を行った。

令和7年4月 2日 ワールド・モニュメント財団及びフリーマン財団の代表者による
視察・協議

4月 8日 ワールド・モニュメント財団の役員の視察対応

6月26日 ワールド・モニュメント財団との協議

（参考）

京町家再生プロジェクト 第1期 釜座町町家（平成23年度）

第2期 旧村西家住宅（平成24年度）

第3期 四条町大船鉾会所（平成28～令和元年度）

（受賞実績）

平成30年9月 2018年ユネスコアジア太平洋文化遺産保全賞最優秀賞受賞

令和 元年9月 2019年ベスト・イン・ヘリテイジで発表、優秀賞受賞

4 歴史的建造物の保全、再生、活用に関する各種の支援及び普及、啓発

(1) 歴史的建造物の再生、活用助成関連事業

京都の歴史及び文化の象徴であり、都市居住を支えてきた京町家を育み、未来に伝えるため、寄附金を積み立て、その運用により、京町家の保全、再生、活用を促進し、京都固有の暮らしの文化、空間の文化、まちづくりの文化の継承・発展と町並み景観の保全及び創造、さらには地域経済の活性化を図ることを目的として、京町家まちづくりファンドを運営する。

ア 京町家まちづくりファンド委員会運営

令和7年10月10日 第54回京町家まちづくりファンド委員会開催

令和8年 3月31日 第55回京町家まちづくりファンド委員会開催

＜令和7年度 京町家まちづくりファンド改修助成事業の選定について＞

令和7年度は、京町家の改修1軒、通り景観の修景2件を選定した。

- ・鯉山町会所（中京区）
 - ・藤西町の路地（中京区）
 - ・祇園紅雪辻子（東山区）
- 各案件の状況については後述する。

イ 京町家まちづくりファンドの普及啓発事業

（ア）京町家まちづくりファンドの情報発信

改修助成事業に選定した郭巨山会所（令和３年度）、リ・ブラン京都 LUXE（令和４年度）、旧キンセ酒店と旧 39 番路地（令和４年度）の記録集を作成し、改修や活用内容を広く発信するために、寄附者等へ送付した。

（イ）京町家まちづくりファンドWEB サイト及び SNS を活用した発信

京町家の改修や通り景観の修景の改修助成事業の進捗状況や、各プロジェクトに関連するニュース等について、WEB サイト、Facebook グループページ及び Instagram にて発信した。

（ウ）「町家の日」への参画

当財団の後援事業である「町家の日」には、京町家まちづくりファンドで助成した京町家 8 軒が参加した。

（エ）連携協定関連

公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、京都市、京都市景観・まちづくりセンターで、文化財の維持・保存・活用、京町家の保全・継承及びこれらのPRに関する事業についての連携協定を締結している。令和７年度は、前年度に引き続き、京町家の保全・継承に係る改修助成に対し、５０万円のご寄附をいただいた。

【寄附受納式】

開催日	出席者	会場
R8. 1. 20	松下日新電機グループ社会貢献基金理事長 阪尻日新電機グループ社会貢献基金事務局長 松井京都市長 平賀京都市文化市民局文化芸術政策監 簗京都市都市計画局長 北川当財団専務理事	京都市役所 正庁の間

（オ）企業からの寄附について

令和７年４月に、ヒルトン・グランド・バケーションズよりご寄附をいただいた。ヒルトン・グランド・バケーションズは、令和８年３月に京都五条にて、京町家をデザインコンセプトとしたリゾートを開業した。

また、株式会社井筒八ッ橋本舗からは長年にわたり継続して、寄附付き商品の売り上げ等の一部をご寄附いただいている。

（カ）個人からの寄附について

西村孝平氏より多大な御支援をいただいた。

(2) 京町家カルテ・京町家プロフィール・京建物カルテの作成

京町家の価値への理解を深め、保全・継承に繋げるため、京町家の歴史や文化的な価値をまとめた「京町家カルテ」、内容はカルテより簡易であるが、発行までの所要時間が短く低料金である「京町家プロフィール」を発行した。令和元年度からは、京町家以外の近代和風建築などに対して「京建物カルテ」を発行した。

項目	令和7年度発行件数	令和6年度発行件数
京町家カルテ	13 件	10 件
京町家プロフィール	163 件	135 件
京建物カルテ	4 件	3 件

(3) 京町家に関する普及啓発業務(京町家カルテ簡易版の作成) (京都市受託事業)

所有者の京町家保全・継承に努める意識を醸成するため、京町家条例における個別指定京町家を対象として、京町家カルテの簡易版(個別指定京町家レポート)を作成した。

項目	令和7年度発行件数	令和6年度発行件数
京町家カルテ簡易版	6 件	5 件

(4) 建造物指定に係る調査資料作成業務 (京都市受託事業)

京町家条例における個別指定京町家のうち、景観重要建造物又は歴史的風致形成建造物等の指定候補となる京町家について、審議会に提出する諮問資料作成のための調査資料を作成した。

項目	作成件数
景観重要建造物候補	2
歴史的風致形成建造物候補	8
合計	10

(5) 京町家状況調査

ア 京町家状況調査報告書の作成・公開

令和6年度に京都市、立命館大学アート・リサーチセンター、当財団の三者で実施した「京町家状況調査」について、調査報告書を公開用に編集し、当財団ホームページに掲載した。調査協力者等には調査報告書を印刷した冊子を配布した。

報告書には、地理空間情報システム(GIS)を用いて推定した京町家の滅失状況、不動産取引状況や路線価等様々なデータと重ね合わせて確認した京町家の現状、団体・専門家へのヒアリング調査、アンケート調査結果、京町家相談に観る継承者の意識の分析等を掲載してい

る。

イ 現地調査による滅失状況等の確認

GIS デジタル情報で推定した滅失状況の確度を検証し、既存データでは確認できない空き家率、残存建物用途及び滅失後用途を確認するため、現地調査を実施した。調査区域はこれまでの調査データが蓄積している職住共存特別用途地区内の元学区の中から、自治連合会等に了承を得られた本能、修徳、有隣、開智、初音、醒泉の6学区の1,943軒を対象とした。結果、GIS データの取得時期と現地調査の時差もある中、全体軒数では約95%の整合率であった。

【調査体制】

現地調査：京町家相談員等の専門家（建築士・大工）、京都市職員、当財団職員がチームで実施。延べ139名が参加。

調査アプリ：立命館大学アート・リサーチセンターが整備したシステムを提供いただいた。

【調査期間】

調査期間：令和7年12月12日～22日

5 公共人材育成に関する教育及び研修

(1) インターンシップ受入

当財団を実務経験の場として提供し、大学での履修科目と実際の現場での実務経験を通して、公共的感性を持った人材を育成することを目的に、連携大学からインターンシップ履修生の受入れを例年実施している。

令和7年度は京都女子大学から2名を受け入れた。

(2) 視察受入

国内外の行政機関、大学等からの視察を受入れ、当財団の活動紹介等を行った。自主財源増加の取組として、賛助会員への加入を条件としている。

受入日	団体名	人数	内容
R7. 4. 22	金沢市立野田中学校	35	京都のまちの成り立ち まちセンの役割
R7. 4. 23	長野県上田市立塩田中学校 3年2組3班	7	魅力ある京都であるための、 まちづくりの努力や工夫
R7. 5. 21	千葉県大網白里市増穂中学校	4	歴史的建造物を残すための取組
R7. 5. 23	川崎市立金程中学校	7	京都のまちづくりについて
R7. 6. 5	秋田県立大曲支援学校せんぼく校	15	京都のまちの成り立ち、特徴、 景観を守るための規制や地域住民の取組
R7. 6. 9	公益財団法人 東京都都市づくり 公社	6	まちセンの事業説明、運営状況
R7. 6. 20	京都府立朱雀高校	8	京町家とは、京都の景観を守る ための工夫
R7. 8. 28	(韓国) 清州市住民自治委員会／ハ ナツアー ज्याパン	47	まちづくりの事例
R7. 9. 18	沖縄県那覇市立寄宮中学校 2年4組	5	沖縄の民家と京都の民家とく らしの違い
R7. 10. 8	秋田県議会総務企画委員会	12	地域まちづくり活動支援、京 町家再生支援、セミナー、人 材育成について
R7. 11. 6	神奈川学園高校	34	京町家の現状、敬称に向けて の取組、京のまちかど見学
R7. 11. 21	韓国標準協会・金海(기해) 青年学校	16	コミュニティベースのまちづ くり運営事例、青年が参加す るまちづくり
R7. 12. 12	韓国／楊平 (ヤンピョン) 郡庁	13	京町家再生支援、景観保全、 都市計画ルール、財団運営方 法
R7. 12. 22	韓国／忠南 (チュンナム) 道庁 自治行政課	13	景観ルール、地域団体との連 携、京町家補助金、相談支援 体制

受入日	団体名	人数	内容
R8. 1. 8	韓国航空大学	16	官・民・コミュニティの連携体制、支援制度、補助金の仕組み
R8. 3. 5	韓国大都市研究院協議会	31	どのように地域のアイデンティティを保ち、活力を吹き込んだのか
R8. 3. 6	高松産業会社	7	まちセン事業説明
合計	17 団体（内 海外 6 団体）	276 人	

(3) 講師派遣

講師派遣の依頼に応じて当財団職員を派遣し、当財団の活動紹介及び京都のまちづくりの歴史、地域の取組事例の紹介等を行った。

派遣日	派遣先	人数	内容
R7. 11. 25	京都女子大学	59	市民によるまちづくり活動 「まちづくりの担い手としての市民 京都のまちづくり」

6 景観整備機構に関わる関連業務

景観法に基づく景観整備機構として、景観重要建造物候補に値すると判断した京町家について、京町家なんでも相談や京町家まちづくりファンド助成事業等と連携し、景観重要建造物への指定を推進するとともに、建物の特性や所有者の意向に応じた他の公的指定（歴史的風致形成建造物等）への提案も行った。

また、相談等に応じてきた京町家等について、公的指定等に向けて継続的な支援を行った。

【公的指定等に向けて継続的な支援を行っている物件数】

1 2 件

（景観重要建造物指定 3 件、歴史的風致形成建造物指定 8 件、市指定文化財 1 件）

7 京都市景観・まちづくりセンター管理運営

令和7年度から令和10年度までのセンターの指定管理者として選定された。センター来館者の増加、施設価値の向上を目的として以下の取組を行った。

- ・センター利用者数 50,422人（令和6年度末 54,471人）
- ・展示施設利用者数 30,058人（令和6年度末 31,529人）

(1) 京のまちかど展示コーナー

平安時代から現代までのまちづくりの流れや町並みの様子を楽しく学べるように、まちなみを再現した展示物やタッチパネル式の映像装置で京都のまちの成り立ちや現状を分かりやすく紹介している。令和7年度は、展示物のうち解説パネルの英語対応を進めた。

- ・京のまちかど利用者数 30,058人（令和6年度末実績 31,529人）
- ・ボランティアガイド案内 151人（令和6年度末実績 252人）
- ＜利用者拡大に向けた取組＞
- ・関西文化の日（関西の博物館等の文化施設連携イベント）に参加
- ・第29回京都ミュージアムロードに参加

(2) 図書コーナー

市民の皆様の主体的なまちづくり活動を支援するため、まちづくり・市民活動・福祉ボランティア・高齢者福祉の各分野に関する図書、視聴覚資料、雑誌、地図、行政資料等を豊富に揃え、閲覧、貸出しを行った。

- ・所蔵資料数

内 訳	令和7年度末実績	令和6年度末実績
一般書籍	14,183点	14,328点
郷土資料	1,295点	1,250点
行政資料	1,028点	1,030点
視聴覚資料	306点	306点
雑誌	497点	455点
地図、絵本等	599点	592点
合計	17,908点	17,961点

- ・利用状況

内 訳	令和7年度末実績	令和6年度末実績
利用者数	14,590人	15,235人
利用者カード新規発行数	121枚	148枚
利用者カード延べ発行数	4,608枚	4,487枚
図書等貸出数	2,608点	2,525点

ア 巽和夫文庫の開設について

故・巽和夫氏（元京都大学名誉教授、都市住宅学会初代会長、元全国建築審査会協議会会長）の御遺族や有志による「巽和夫記念文庫プロジェクトチーム」（代表高田光雄京都大学大学院工学研究科教授）の御協力の下、巽氏が所蔵されていた資料2,105冊の蔵書を当財団に寄贈いただいた。これを広く市民の皆様に活用いただくため、ひと・まち交流館図書コーナーに「巽和夫記念文庫」を設置している。

・貸出数 12点（令和6年度末 22点）

イ 利用者拡大に向けた取組について

毎月4センターが交代で企画するテーマに沿った書籍約15冊を図書コーナーに展示しており、2週間ごとに季節や時事的話題に沿った題材で「ピックアップ」展示を行っている。

令和8年1月5日から17日の期間で令和8年新春福袋のイベントを実施し、利用者拡大に取り組んだ。

(3) 洛中洛外図屏風

ひと・まち交流館地下1階に設置されている国宝洛中洛外図屏風（上杉本）実物大複製パネルを活用し、屏風に描かれた室町時代の京都の四季とそこに暮らす人々の生活風俗を紹介する催し（洛中洛外図の基礎講座及びフィールドワーク）を行った。

開催日	テーマ	出席者
R7. 4. 26	フィールドワーク「洛中洛外図の内野を歩く」	22
R7. 5. 17	洛中洛外図の基礎講座「左京と右京、上京と下京」	35
R7. 6. 21	洛中洛外図の基礎講座「洛中洛外図の今昔」	32
R7. 7. 12	洛中洛外図の基礎講座「上杉本で見る祇園会と御霊会」	38
R7. 8. 30	洛中洛外図の基礎講座「中世京都の町衆自治と防火防災」	28
R7. 9. 20	洛中洛外図の基礎講座「上杉本洛中洛外図の今昔」	25
R7. 10. 18	フィールドワーク「洛中洛外図の中京を歩く」	25
R7. 11. 22	洛中洛外図の基礎講座「京都の変則十字路」	32
R7. 12. 20	洛中洛外図の基礎講座「中世の生魚座と女性経営者」	27
R8. 1. 31	洛中洛外図の基礎講座「応仁の乱と相国寺大塔」	49
R8. 2. 21	洛中洛外図の基礎講座「近世京都の町議録」	22
R8. 3. 21	洛中洛外図の基礎講座「祇園感神院と本地垂迹」	32

(4) まちづくり交流サロン

まちづくり交流サロンにおいて、京町家の構造などが分かる模型のほか、ミニチュアハウスと紙彩画の展示「着物づくりと京町家」を常設展示しており、令和8年3月11日から3月15日の期間で下京区ふれあい事業実行委員会と連携し、「下京まちなかアート」の展示も行った。

また、様々な分野の人同士がつながり、新たな交流の輪を広げるカフェ「The Base Mental Café」を毎月第2金曜日（17:30～20:00）に開催した。

・来場者数 延べ約 500 人

(5) まちづくり工房

コピー機、印刷機、紙折機、製本機等を設置し、主催、共催事業等での活用、登録団体への貸し出しをしている。

＜稼動回数＞ 24回（令和6年度末実績 114回）

※令和7年度は令和7年4月1日から令和7年6月30日まで

(6) ワークショップルーム

景観・まちづくり大学をはじめとする主催、共催事業等での活用のほか、登録団体への貸出しを行っている。

＜稼動回数＞

ワークショップルーム1 238回（令和6年度末実績 251回）

ワークショップルーム2 251回（令和6年度末実績 289回）

ワークショップルーム3 171回 ※令和7年7月1日から令和8年3月31日

＜うち他団体使用回数＞

ワークショップルーム1 60回（令和6年度末実績 67回）

ワークショップルーム2 63回（令和6年度末実績 41回）

ワークショップルーム3 16回 ※令和7年7月1日から令和8年3月31日

公2 京町家保全再生事業

良質な地域コミュニティの形成と歴史都市・京都の景観の基盤を構成してきた、京町家等の伝統的建造物を保全・継承し、伝統的な京都の暮らしの文化を今に活かすとともに、歴史資産としてのストックと新たに形成される良質な建造物とが融合した京都らしい活力のある歴史的町並みの形成を目的とする。

京町家まちづくりファンド改修助成事業

京町家まちづくりファンド基本方針に基づき、京町家の再生・修復、通り景観の修景に係る工事等の活動に対し、改修費用の一部を助成した。

令和7年度交付実績：令和6年度選定分 合計 2件
(昭和小路 ココナガヤ、竹中庵の京町家3軒)

以下、改修助成事業の状況を記す。

【令和7年度選定】

●鯉山町会所(京町家の改修)

所在地：中京区室町通六角下ル鯉山町 522 番地

事業状況：R7.12 外観意匠協議、R8.1 京都市指定文化財答申、R8.8 着工、R8.12 竣工予定
交付予定：5,000,000 円

改修内容：屋根の改修、外壁の改修、外部建具・格子の改修、室外機・メーターの修景
概要：

- ・祇園祭では懸装品の展示や粽の授与が行われるなど、重要な役割を果たす鯉山町会所。その伝統文化を守るに相応しい外観へと改修するプロジェクト。

改修前



町会所 外観

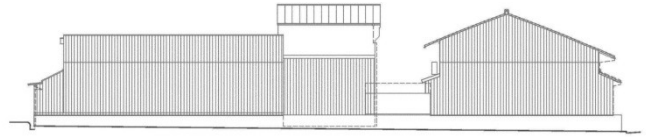


北側外観

改修後



町会所 立面図



北側立面図

●藤西町の路地（通り景観の修景）

所在地：中京区醒ヶ井通四条上る藤西町 587-1、587-2

事業状況：R8.8 着工、R9.1 竣工予定

交付予定：9,523,000 円

改修内容：路地舗装、大屋根・外壁等の改修

概要：

- ・かつての紅染業従事者の借家 11 戸からなる路地。路地全体を再生するプロジェクトの第一歩として、醒ヶ井通に面する 2 軒の修景を行う。

改修前

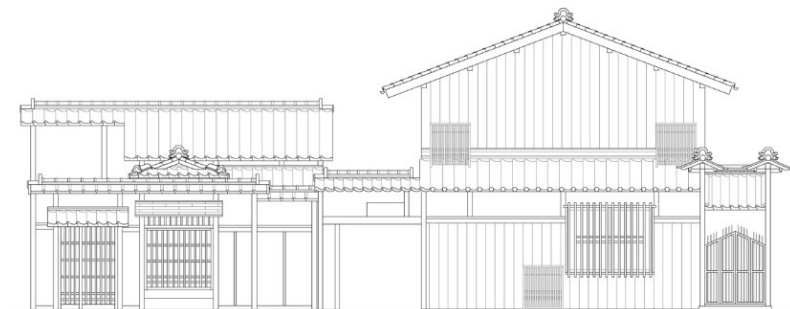


醒ヶ井通沿い 外観



路地内

改修後



醒ヶ井通沿い 立面図

●祇園紅雪辻子（通り景観の修景）

所在地：東山区祇園町南側 570 番 124、570 番 282、570 番 283、583 番 1、583 番 3、
583 番 4、583 番 5、584 番 1、584 番 2、584 番 3

事業状況：R8.7 着工、R9.2 竣工予定

交付予定：10,000,000 円

改修内容：路地舗装、大屋根・外壁等の改修

概要：

- ・4 軒の京町家と 2 軒の新築からなる、四条通から花見小路へと抜ける紅雪辻子。四条通沿いを復元的に改修し、路地全体の修景を行うプロジェクト。

改修前

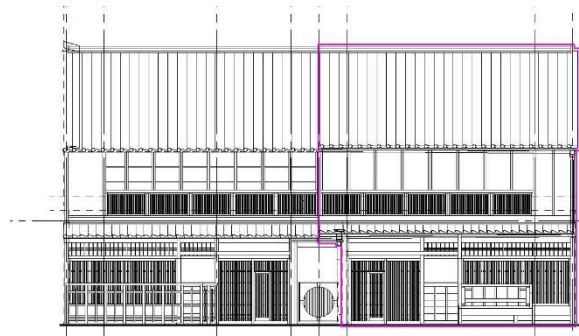


外観 四条通北側より望む



四条通沿い西側

改修後



紅雪辻子内 立面図

収益事業

歴史的建造物利活用事業

京町家の利活用の更なる展開と町並み景観の維持向上を目指し、重要伝統的建造物群保存地区（祇園新橋地区）内の歴史的建造物を所有者である京都市から当財団が貸借し、民間の活力ある事業者へ貸し付けるサブリース事業に取り組んだ。

- ・令和4年10月 京都市とのマスターリース契約締結
- ・令和4年11月 利活用事業者の公募開始
- ・令和5年 3月 利活用事業者選定委員会開催
- ・令和5年 6月 株式会社ケリングジャパン イヴ・サンローラン ディビジョンとサブリース予約契約締結、8月本契約締結（公正証書）
- ・令和7年 7月 改修工事竣工、事業関係者向け現地内覧会開催（参加者：63名）
- ・令和8年 グランドオープン（時期未定）

法人運営

1 理事会・評議員会

理事会、評議員会等を下表のとおり開催した。

【理事会】

回	開催日	主要審議（報告）事項
第 51 回	R7. 6. 5	令和 6 年度事業報告及び決算 顧問及び相談役の推薦について 評議員選定委員の選任について 第 2 8 回評議員会の開催日程について 令和 6 年度資金運用結果について 評議員会への理事候補者名簿の提出について
第 52 回 (書面理事会)	R7. 6. 24	理事長選任の件について 専務理事選任について
第 53 回	R8. 3. 18	第 7 次中期経営計画について 令和 8 年度事業計画及び収支予算について 令和 8 年度資金運用計画について 第 2 9 回評議員会の開催について

【評議員会】

回	開催日	主要審議（報告）事項
第 28 回	R7. 6. 24	理事の選任について 令和 6 年度事業報告及び決算について 令和 6 年度資金運用結果について
第 29 回	R8. 3. 27	第 7 次中期経営計画について 令和 8 年度事業計画及び収支予算について 令和 8 年度資金運用計画について

2 賛助会員管理

住民、企業、行政が力を合わせて美しい京都のまちを守り育てていくパートナーシップのまちづくりを推進しており、活動趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集している。当財団の事業活動を通じ周知・入会勧奨に努めた。

<入会状況>

令和 7 年度末（令和 6 年度末）

種別	延べ人数、団体数	会費収入
個人会員	103 人（ 116 人）	655,000 円（ 715,000 円）
団体会員	21 団体（22 団体）	1,050,000 円（1,100,000 円）
	合計	1,705,000 円（1,815,000 円）

【参考】年間会費 個人（1 口）5,000 円、団体（1 口）50,000 円

3 職員研修の充実

職員の資質、能力向上を図るため研修を実施した。

【職場研修】

開催日	研修名	講師又は主催者
R7. 4. 7、4. 9	新任職員研修	当財団職員
R7. 10. 6、10. 9、 10. 16	新任職員研修	当財団職員

まちづくりコーディネーター向けに、業務関連資格の取得奨励制度を設けている。

【派遣研修】

開催日	研修名	講師又は主催者
R7. 4. 12～10. 25	第 15 期京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）	京都市文化財マネージャー育成実行委員会
R7. 10. 7	秋の新入社員研修 （仕事の基本コース）	京都商工会議所
R8. 1. 29～1. 30	リーディング エッジ マネジメント セミナー	株式会社ビジネスコンサルタント

4 その他

環境改善の取組として、K E S（環境マネジメントシステム）ステップ 1 を推進した。

環境改善項目	
省エネルギー化	電力使用量 1.6%削減（令和 7 年度目標対比）
省資源化	事務用紙使用量 7.4%削減（令和 7 年度目標対比）
啓発活動	建物周辺の清掃（毎月 1 回平均 9.3 人の参加）
省エネルギー化	京町家カルテ・プロフィール及び京建物カルテ作成 180 件